

第6回トップマネジメントセミナー開催

2月3日（月）日比谷図書文化館（東京都千代田区）において、J-PAO 主催の第6回トップマネジメントセミナーを開催しました。

今回のセミナーでは、成長分野に位置づけられた農業をどう促えるか、農業者支援に関心の高い経営トップがどのように企業を存続・進化してきたのかを紹介した後、農業者を交え、これからの農業者の更なる一歩について語り合いました。

総勢で100名を超える方が参集し、交流会にも50名程度の参加をいただきました。

内容は、講演、パネルディスカッション、交流会の3部構成で行い、第1部ではJ-PAO 会員企業よりお二人の代表取締役（アサヒグループホールディングス株式会社 荻田会長、株式会社ぐるなび 久保社長）にご講演いただきました。参加者からは「社員の活かし方を考える機会になった」「企業の着眼点が勉強になった」などの声がありました。

第2部のパネルディスカッションでは高木理事長がコーディネーターとなり、パネラーに3名の農業者（秋葉秀央氏、井尻弘氏、金子栄治氏）をお迎えし、「これからの農業者が更なる一歩を進むためには、何が必要か」をテーマに語りあいました。参加者からは「生産者と企業間の共有の大切さを感じた」「農業者課題が理解できた」などの声がありました。

その後の交流会では、参加者相互の様々な交流が行われました。

このセミナーの概要につきましては、近日中に会員の皆様へご連絡いたします。



講演：荻田会長



講演：久保社長



講演会の様子



パネルディスカッションの様子



交流会の様子

専門部会の動き（1月分）

【事業化支援・販売支援③】

前回に引き続き、北海道産牛肉のブランド化について議論しました。

今回は、前回検討した事例及び規模や飼養体系が対照的な肉用牛経営を対比しながら、各社の強み、弱みの洗い出しと今後のそれぞれのブランド認知向上について意見交換を行いました。

次回は、これまでの北海道産牛肉のブランド化についての検討結果のまとめを行います。

【人材育成①】

今回は、建設業から農業参入した企業からの経営改善相談について、専門部会で経営課題の洗い出し、改善の方向性について意見交換を行いました。

意見交換では、生産技術取得の方法（反収の向上策）や、市場以外の販売先を確保しておく必要性など、農業部門を軌道に乗せるための方策について様々な意見が出されました。特に、安定した生産基盤を確立するために、農業者の目線から当社の生産体系や管理方法などを検証する必要があると判断し、農業者の会員を現地に派遣し、実地検証する機会を設けることとしました。

【人材育成②】

サポート人材育成研修の実施報告、トップマネジメントセミナー開催について検討を行いました。

サポート人材育成研修については、集合研修（2回目）がすべて終了し、受講生からのコメントを紹介しました。

また、2月3日開催の第6回トップマネジメントセミナーについて、当日の配布資料、パネルディスカッションの進行などについて意見交換を行いました。

次回は、トップマネジメントセミナーの振り返りと来年度のサポート人材育成事業について検討を行います。

第7回アグリフード EXPO 大阪 2014 開催

第7回アグリフード EXPO 大阪 2014 が2月20日(木)～21日(金)ATC アジア太平洋トレードセンターにて開催されます。

J-PAO も出展する農業者のサポートを行うほか、EXPO 開催前日 (2/19) に、「商談会スキルアップセミナー」を行います。

出展者および関係者の商談スキルアップに役立つセミナーとなっていますので、奮ってご参加下さい。

*詳細・お申込につきましては、以下の URL をご参照下さい↓

<http://www.j-pao.org/news/seminar/2014/0197/>

アグリフードEXPOの直前対策！！

J-PAO 商談会スキルアップセミナー

Japan Professional Agriculture total support Organization
第14回 実践！商談会ビジネス

EXPO出展者必見！！バイヤーはココを見る！

- ・バイヤーはどういったことを知りたいのか？
- ・バイヤーを呼び込むには？
- ・効果的なアピールの仕方？
- ・商談をどうやって成約まで結びつけるの？

こうした疑問に、バイヤー、商談会開催経験者がお答えします。

開催概要

(1)対象	アグリフードEXPO大阪2014出展者および関係者
(2)募集人員	40名 (先着順)
(3)受講料	2,000円 (当日会場にてお支払いいただけます)
(4)カリキュラム	17:15 ~ 18:30 「外食企業が農業生産者に求めること」 株式会社ケンレイ 外食事業カンパニー開発本部 商品部購買チーム チームマネージャー 佐藤 琢二 氏
(5)お申し込み	別紙「参加申込書」をJ-PAO事務局あてにFAX、郵送又はE-mailにてお送り下さい。

開催日時:平成26年2月19日(水) 17:15～18:30
(アグリフードEXPO2014大阪 開催前日)

会場:ATCアジア太平洋トレードセンター O's南6階 B1会議室
(大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10)

主催: NPO法人日本プロ農業総合支援機構 (J-PAO)
協賛: 農日本政策金融公庫 農林水産事業

J-PAO (お問い合わせは)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-9 第一丸三ビル6階
NPO(特定非営利活動)法人 日本プロ農業総合支援機構 (担当:後藤、榎岸)
TEL:03-6684-1015 FAX:03-6684-1016
E-mail: info@j-pao.org http://www.j-pao.org

理事会・総会の日程が決まりました

平成26年度第1回理事会・総会の開催日程が決まりました。会員の皆さまは、あらかじめスケジュールの確保をお願いします。

なお、議案等の詳細は5月中旬に連絡します。

開催日:平成26年6月2日(月)

場所:日比谷図書文化館(東京都千代田)

主な活動 (1/25～2/14)

- 1/30 日本公庫金沢支店交流会 (オイシックス(株)阪下氏)
- 2/3 第6回トップマネジメントセミナー
- 2/4 とちぎ農業ビジネススクール(農業経営支援センター)
- 2/5 愛媛県西条市 EXPO 出展者向けセミナー (後藤)
- 2/6 日本公庫青森支店交流会 (オイシックス(株)阪下氏)
- 2/6 新潟県新発田振興局販路拡大セミナー (後藤)
- 2/12 第78回企画運営委員会
- 2/12 日本公庫長野支店交流会 (農生産者連合デポソ井尻氏)

往復書簡

今回からは、梶谷氏（山梨県 ㈱ファーマーズ・リンク）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹様

極寒の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。山梨の地で、法人代表者として新たな年を迎え、改めて自らの担うべき役割と責任について考える日々を過ごしております。

弊職は、大学卒業後、商社へ就職し、大手自動車メーカーへの出向を含め7年間、所謂『モノ作り』の業界と関わってきました。中小零細企業の『技術』を、大手メーカーの『しくみ』に如何に組込むか、商社として如何に『機能』するかということを実務として行っておりました。コメ農家に生まれ育った弊職にとつては、社会、企業のしくみを学ぶとても貴重な経験となっただけでなく、弊職の思考や感性の根底にあるものが『農業』であり、それらが一般のビジネス社会で十分通用するものであるという結論を得たわけでありませう。

『農業の発展・活性化に貢献したい』その一念で、平均以上の安定した所得を捨て、農業界に関わり早四年が経とうとしておりますが、その想いは通ずることなく、未だ不完全燃焼であります。

この一年あまり、縁あって全国の農業法人の経営者の方々にお会いし、微力ながら事業のお手伝いをさせていただきました。この間、弊職が改めて感じたことは、今もなお、多数の農業法人が一般ビジネス社会とは乖離した状態で経営を行っているということです。さらに、彼らをとりにまく行政、金融機関等支援者もまた、組織や担当としての業務を全うする為、自らの立場を擁護する為、現状ありきで農業経営者を甘やかし、許しているのではないかとい

うことです。

農業の特殊性を考慮するのであれば、更に高いレベルでの経営能力を求めるべきであり、家族なり企業からの脱却による社会性の向上は当然のこと、持続、発展可能な経営体としての農産物生産・流通活動を推進・支援すべきであると弊職は考えます。

農業界において、三十代〜四十代の若者が夢を持って農業またはその経営に従事できる環境整備について、世代ごとの役割を含め、高木様の課題認識とお考えを拝借できれば幸いです。

平成二十六年一月吉日

敬具

梶谷 よしみ （かじたに よしみ）

一九七九年 京都府生まれ
二〇〇三年 立命館大学法学部卒業
同年四月 豊田通商㈱ 入社
二〇一〇年四月 実家に戻り、㈱京都ファーム支援
二〇一二年 山梨県 ㈱イズミ農園に就職・就農
同年十一月 山梨県にて㈱JPAO 山梨設立・代表に就任
農場および集出荷施設管理
二〇一四年一月 ㈱ファーマーズ・リンクに社名変更



拝復 梶谷 よしみ様

暦の上では一月二十日が大寒です。毎年この頃思うのですが、冬来りなば春遠からじ。節分の頃には梅一輪一輪ごとのあたたかさを感じるように思います。

お手紙を読んで、貴女の実社会での経験は恐らく私の行政経験や行政を通じて見聞した多くの事とは異質のもののように感じました。

だからなのか貴女が「自分の思考や感性の根底にあるものが『農業』であり、それらが一般ビジネス社会で十分通用するものである」という結論を得た「続けて『農業の発展・活性化に貢献したい一念が通じない無念の思い』と記されている点には大変共感を覚えました。

貴女は農業と他産業・異業種の両岸を「経営」という視点で実践してこられたがゆえに、農業法人の「経営」に対する甘さと「立派な農業経営者」のイメージをこわさないよう、その甘さを何とか繕っていかうとする行政、金融関係者の対応が断じて許せない、支援の仕方を間違っていると正鶴を射た指摘になってしまうのだと思います。

私も、いろいろな手を打ってきたが、農業、農村の衰退がとまらない行政経験を通じて「農業の守り方の転換」を主張しています。

その一環として「現場」を変えていく、「現場」が変われば行政も追いつけざるを得ないというのが行政経験に裏打ちされている結論です。

貴女の問いに対する答えにはならないかも知れませんが、私の申し上げたいのは、夢は与えられる

のではなく、かちとるものということです。環境整備もそうです。

貴女方世代が「現場」を変え創っていく、ニーズに応える、ニーズを創り出すことを実践する、それを通じて、甘つたれでないことを示す。

このプロセスで恐らくあらゆる毀誉褒貶にさらされることになるでしょう。それをプラス思考で自らのものさしを鍛えてくれるものと受けとめるのです。

私は官僚として「珍種」を自負しています。貴女も「農業界」の立派な「珍種」です。

年寄りはこの風に考えますが、いかげじょう。次回また。

平成二十六年二月吉日

敬具

高木 勇樹 (たかぎ ゆうき)

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒業農林省入省。食品流通局砂糖

類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 農林中金総合研究所理事

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

